

## 令和3年度事業計画

### 1. はじめに

2020年（令和2年）は新型コロナウイルスによって世界が激変した歴史的な年となりました。WACも大きな影響を受け、急速な変化への対応が求められた一年でした。パンデミックは未だ終息が見られず、「新しい日常」が定着しつつあります。

令和3年度は、「新しい日常」でのWACの活動、事業の在り方を探求する元年となりそうです。新しい日常の特徴の一つがオンライン化です。WACもオンライン化によって研修プログラムを見直し、面談や会議時間を短縮して対応しました。もう一つは健康管理と衛生管理です。これらによって、主催者・参加者ともに衛生管理が当たり前となり、会場設定や時間配分、疑似体験セットの見直しまで影響が及びました。一方、対応が困難だったのが人と人との交流の場です。新しい日常の中でのコミュニティ活動の在り方が課題となっています。

公益社団法人長寿社会文化協会では、社会参加等による生き甲斐づくり、就労支援、介護人材育成、地域の活性化また生活支援・介護予防事業などの分野において牽引的役割を發揮し、明るく元気な力ある長寿社会の構築と発展に寄与することを目指しています。WACが掲げてきた理念を変化した世の中にあっても、多くの高齢者のみならず多世代に広げていくよう努めます。

令和3年度、公益事業では「千葉県福祉ふれあいプラザ指定管理事業」が第四期指定管理の最終年で再申請の年です。コロナ禍であっても、千葉県高齢者福祉計画に沿って重点課題に取り組むとともに、デジタルとリアルのハイブリッドを目指します。アクティブシニア就業支援センター「みなと＊しごと55」は、平成21年から港区で55歳以上を対象に無料職業紹介、就労支援を実施してきましたが、令和3年度はセンターとして最終年度となります。「福祉サービス第三者評価事業」は、事業継続できる体制づくりに努めます。「コミュニティカフェ事業」は開設講座の拡大やコミュニティカフェ受講生のネットワークづくりを進めます。

一方、収益事業である「高齢者福祉関係人材育成事業」「高齢者・認知症疑似体験事業」は収益基盤強化を図ります。具体的には、生活支援サービス研修を軸に、自治体からの受託事業を展開、時代に求められる新たなオンライン研修を取り入れて収益拡大を目指します。「高齢者・認知症疑似体験事業」は、時代の要望に即したオンライン研修で新しい顧客とプログラムの創出を目指します。

そして、会員拡大のため、WACポイントの活動支援のためのHPの活用拡大、会員交流の支援、寄附金の取扱いなど会員サービスの強化を図ります。

また、認定された公益・収益事業内および将来に向けた新規事業の開発に取り組んで参ります。

### 2. 会員に関して

会員拡大は本協会の喫緊の課題でありながら、会員数は減少し続けています。会員からの要望が多い交流イベントの実施は、コロナ禍で厳しい状況です。しかしながら、新規会員獲得、既存会員の継続に向けて会報誌等を通じて会員に役立つ情報提供、特に「新しい日常」でのコミュニティ活動の情報・支援など魅力あるWACとなるように努力します。

賛助会員費は寄付金に該当するため、税額控除の対象団体としての利点をアピールして会員拡大に役立てます。法人会員については、高齢者・認知症疑似体験事業等により新規法人会員の獲得を図っていきます。

(単位=千円)\*会員拡大のための必要経費あれば一般管理費より支出

収入予算
3,000

### 3. 事業に関して

事業は、公益事業、収益事業を以下のとおりに行う。事業予算は、公益事業収入 124,258 千円、収益事業収入 32,100 千円、寄附金・会費収入等 9,800 千円とし、合計は新型コロナの影響を鑑みて前年度予算の 86%となる 166,158 千円とした。

#### 【公益事業】

##### 〔公1事業〕〈高齢者福祉増進・啓発事業〉

##### ○高齢者の福祉・健康・生きがいづくり等支援事業（千葉県福祉ふれあいプラザ指定管理）

令和3年度は、第4期指定管理(2019年4月1日～2022年3月31日)の最終年度になり、第5期指定管理申請の重要な年です。千葉県高齢者保健福祉計画の基本理念・施策の推進方策に沿って重点課題（地域包括ケアシステムの構築など）に取り組めるよう県民、自治体や地域包括支援センターの現状を把握して課題に応える事業を進めます。

主テーマは、新型コロナウイルスによって急速に進んだオンライン研修等のデジタル化と利用者に望まれる会って話せるリアルな交流との融合、ハイブリット化の探求です。

収入予算は利用料収入に新型コロナの影響が避けられないと予測して、昨年度予算約7割に止めました。よって、収入予算は指定管理料 9,300 万円と利用料 1,730 万円で 11,030 万円（WAC75%配分 8,272 万円）としました。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
82,725	82,725	0

##### ○福祉サービスの質の向上事業（福祉サービス第三者評価事業）

令和2年度は、東京都の第三者評価制度が改定されたことと職員体制の変更を機会に中期計画作成を試みましたが、作成に至らないまま新型コロナウイルス対策に注力した年でした。新型コロナの影響で評価方法にオンライン等のデジタル化の波が押し寄せましたが、評価員への支援を行いながら対応しました。新年度も感染防止策は基より、新型コロナが引き起こした変化に対応するよう事業所と評価員、WAC事務局との共通理解に努めます。また、引き続き事業の基盤となる評価員の人材確保を中心とした3か年計画を作成して事業存続と適正化に努めます。

##### ・3か年計画の作成と実行

人材確保、新人発掘、リーダー候補者養成、紹介・リクルートの推進、事務局の向上

##### ・事業規模 第三者評価 目標 35 件（収入 1375 万円）

利用者に対する調査 目標 5 件（収入 125 万円）

評価者 リーダー：延 40 人、一般評価者：延 40～75 人

##### ・評価者研修、内部研修、苦情相談体制の整備

東京都機構主催研修への参加支援、評価者・リーダー会議、職員ミーティング等

##### ・顧客開発体制整備、評価関係業務の見直し

感染予防やオンラインを取り入れた新たなリーフレット、資料の作成

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
15,000	15,000	0

### ○長寿社会の啓発事業（「ふれあいねっと（会員向け情報誌）」の発行）

会報誌「ふれあいねっと」及び「ふれあいねっと瓦版」を発行します。ホームページのリニューアルに努め、広報活動の強化を図ります。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
0	2,000	▲2,000

### 〔公2事業〕 ≪高齢者の雇用・就労支援事業≫

#### （「みなと＊しごと55」港区アクティブシニア就業支援センター）

令和2年度は、コロナ禍の影響による求職者の来所制限などで、就職者は大幅に下回る見込みです。

このような状況の中、令和3年度はコロナの状況にもよりますが、一人ひとりの職員のマッチング精度を上げる努力をします。また、関係団体（東京しごと財団、港区、シルバー人材センターなど）との協力体制を強化し、就職者の目標達成に努力します。

<目標>

就職数：240人 求人開拓件数：1,600件 求人開拓延人数：3,500人

求職者数：2,200人（新規：1,000人、再来：1,200人）

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
25,033	25,033	0

\*補足 収入・支出とも前年度比223千円の上昇。

### 〔公3事業〕 ≪地域の相互扶助機能活性化事業≫

#### （コミュニティカフェ）

令和3年度は、昨年度と同等または以上の実績を目指します。他団体との連携によりコミュニティカフェ開設講座を開催して自治体の講座の企画・運営、講師派遣にも取り組みます。

コミュニティカフェの交流支援を行う「コミュニティカフェ全国交流会」を開催して、事業拡大とWAC会員取得を目指します。

(単位=千円)

収入予算	支出予算	収支残
1,500	1,500	0

## 【収益事業】

昨年度、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、研修や高齢者疑似体験は、中止・延期、規模縮小を余儀なくされる一方、オンライン研修など、コロナ禍の「新しい日常」への適応に踏み出した第一歩の年でした。令和3年度は、オンライン研修や感染予防に配慮した体験・商品開発を目指します。

### 〔収1事業〕 《高齢者福祉関係人材育成事業》

#### ・生活支援サービス研修

昨年度に引き続き日常生活支援研修を実施していきます。

東京しごと財団より生活支援サービス研修（年6回）の研修を行います。

収入予算 1,719 千円

#### ・自治体委託介護人材養成研修事業

生活支援ヘルパー研修や入門的研修などを開催します。

収入予算 8,501 千円

内訳 ①千葉県県民研修 2,960 千円

②その他 6,541 千円

#### ・自治体委託就職相談会事業

介護サービス事業所や障害者福祉事業所との就職相談会（オンラインを含む）を開催。

収入予算 5,780 千円

内訳 ①江東区 2,508 千円

②その他 3,272 千円

(単位=千円)

	収入予算	支出予算	収支残
入門研修、生活支援、県民研修他	16,000	9,000	7,000

### 〔収2事業〕 《高齢者・認知症疑似体験事業》

#### ・高齢者疑似体験事業、認知症疑似体験事業

WAC の強みである質の高い研修の提供を継続的に行うため、多様な最新情報を提供して事業展開します。特に、コロナ禍で貸出し依頼がほとんどなくなった昨年、オンラインでのインストラクター研修を開発、感染予防から衛生的な部品やプログラムの開発と、危機的状況にあって新たな製品を産み出しました。

オンライン研修は、新たな顧客獲得に功を奏すると思われ、多様な依頼主の要望に合わせて感染対策とプログラム内容を開発するなど事業変革を行います。また、高齢者疑似体験などの WAC 本部インストラクターの人材確保として、ボランティア研修を新規で行います。

##### ①時代に沿った新しいプログラム開発、事業継続、新規獲得

台東区委託 小学校 18 校 2,358 千円

##### ②オンラインによるインストラクター研修の普及

インストラクター研修（基本オンライン、要望に応じ出張）

受講料 11,000(税込)+会費 3,000 円 ¥11,000×80 名=880,000

- ・定期研修（高齢者疑似体験） 年4回／5月、8月、11月、3月 目標60名
- ・個別研修（認知症疑似体験、高齢者疑似体験） 随時 目標20名

③WACインストラクターの養成

- ・ボランティア研修（新規、つくし君）台東区民想定、無料 年1回 10名程度  
WACインストラクターとして活動する場合は入会。

（単位＝千円）

	収入予算	支出予算	収支残
高齢者疑似体験	12,700	7,000	5,700
認知症疑似体験	2,000	1,500	500
合計	14,700	8,500	6,200

〔収3事業〕

＜介護予防委託事業＞

（品川区委託事業）

認知症・高齢者引きこもりの予防、生きがい・仲間作りの支援のため、自治体から介護予防事業として委託を受け、引き続き取り組みます。

・男の手料理教室、わくわくクッキング、食事処

高齢者の介護予防事業として、東京ガスと協同で行っている品川区の委託事業は昨年15年目でしたが、新型コロナの影響で全てキャンセルされました。しかし、教室受講生は高齢者であり、料理を通じて、生きがい、健康、仲間づくりが重要であるのは変わらず、介護予防事業として評価されています。令和3年度は、コロナの感染状況により、開始時期は夏以降制限付きで実施予定です。

（単位＝千円）

収入予算	支出予算	収支残
1,400	1,000	400